

事業者向け

令和4年度 放課後等デイサービス自己評価表

ふくふく

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			法定基準を満たしたスペースを確保している。折り畳み机の活用などで活動スペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			人員基準以上のスタッフ数を配置しているが、部活動者の送迎対応等も行っているため、状況に応じてより手厚い配置ができるとより良い。
	3	子どもの失踪や部外者の勝手な侵入が生じないような対策をとっているか		○		扉には施錠忘れが無いよう視覚提示有。防犯としてインターフォンの使用とダブルロックを徹底している。コロナ禍における換気との兼ね合いが課題である。
	4	子どもにとって危険が生じないように、設備や備品等に破損や故障がないか	○			毎日の消毒業務の際に、遊具等の点検を実施し、破損等による危険がないかの確認を行っている。
適切な支援の提供	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、改善につなげているか	○			調査実施後に職員会議にて、共有と改善案の検討を行っている。随時業務改善につなげていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			会報は公開先が限定されるため、閲覧制限のないホームページで情報公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		第3者評価を昨年受審したが、その結果を十分に運営に生かしきれていない面がある。次年度以降の業務改善に活用していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			各種研修に積極的に参加している。今年度はオンライン研修も多く活用し、日時に制限なく参加できた。
	9	日々のアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	○			日々の個別記録も丁寧に記載し、モニタリングや支援計画に反映している。今後はICTを活用した記録の統一化を進めていきたいと考える。
	10	保護者と半年に1回以上は面談し、個別支援計画を半年に1回は見直し・作成しているか	○			来所面談にて、丁寧にお話をきくことができた。自主降室等で送迎時に保護者様にお会いできないご家庭もあるため、直接お話できる貴重な機会である。
	11	基礎となる活動プログラムの立案(行事や月間予定など)をチームで行っているか	○			事業所会議でアイデアを出し合っている。また、子どもの希望も聞き、実現させる等工夫をしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			コロナ禍による制限の中ではあったが、徐々に活動内容を戻し、調理や外出を再開することができた1年間となった。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、活動内容を工夫して提供しているか	○			平日活動は中高生の下校時間や疲労度に合わせ、室内プログラムがメインであるが、休日活動では感染症対策に留意しながら、外出機会を多くつくれた。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて活動を提供しているか	○			集団活動をメインとしながらも、ご利用者によってはお散歩やドライブ等の個別活動で気持ちを整えてから、集団に戻るなどの工夫ができた。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援前に打ち合わせを実施し、全スタッフの目で最終調整や改善を行い、活動に臨めている。活動や支援の目的まで共有できるとより良い。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			振り返りミーティングを実施し、個別の児童対応も皆で共有している。送迎職員との情報共有が課題であるが、特記事項は赤字で記録を残すなど、共有漏れがないよう工夫している。

関係機関や保護者との連携や説明等	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		日々の個別記録も丁寧にできているが、児童の様子によって、記録量にばらつきが生じてしまっているため、留意したい。また、個別支援計画を意識した記録ができると良い。
	18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	○		平日の活動では、室内活動(制作、レクリエーション、調理等)を、休日活動では外出活動をメインとして支援を実施している。
	19	必要時、障害児相談支援事業所の担当者と連携(担当者会議や相談等)しているか	○		適宜連携し、放デイでのご様子等をお伝えするなど情報共有に努めている。
	20	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○		各学校の連絡担当を決め、その他個別の下校時間等は、各保護者に伝えてもらっている。活動日誌への転記ミスがないよう、ダブルチェックを設けるなど工夫を行っている。
	21	学校行事の見学等、学校での子どもの様子を把握するよう努めているか		○	コロナ禍以降、学校公開や行事の見学等の機会がなく残念であるが、機会があれば積極的に参加したい。
	22	学校入学前や卒業後の諸機関と、必要に応じて連絡をとりあっているか		○	卒業生へは最後のモニタリングを実施し、お渡している。必要に応じて卒業後の就労先にもお見せいただくなどで、活用いただくようお伝えしている。
	23	障害のある子どもの放課後活動に関する連絡会への参加や地域の事業所との会議に出席して、情報共有に努めているか	○		地域の作業所連絡会、児童部会、東京都や国の放課後連に加入し、定例会や研修などに積極的に参加している。
	24	地域の方との交流や外出活動などを通して、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	コロナ感染症の影響より、直接的な関りとしては十分な機会はつくれていないが、外出活動等で、社会の中での関わり合いの機会は大切にしている。
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡帳、または帰りの送迎の際などにやり取りの機会を持っている。必要に応じて、お電話等でも保護者様とのやり取りを行っている。
	26	入会時や変更時、運営規程、活動の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		変更が生じた時には随時、メールや文書で周知している。
	27	保護者からの相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		必要に応じて、お電話等でも保護者様のご相談を聞き、やり取りを行っている。また保護者会の場を活用し、OB保護者からも助言いただく機会をもった。
	28	地域行事への参加を通じ、また保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		コロナ前は地域のおまつりに出店する際に保護者交流の機会があったが、コロナ禍で現在も開催できず交流機会は減っている。一方、保護者会は対面とオンラインのハイブリット方式で行うなどで参加しやすい方法で行い、先輩保護者の話を聞く機会も設定した。
	29	苦情があった場合に、懇切に迅速かつ丁寧に対応し、改善策を速やかに伝えているか	○		苦情の申し出はなかった。事業所内での共有、対応体制を整えている。
	30	定期的に会報の発行やホームページにて、活動の様子や情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		通信は定期的な発行を行い、地域にも発信する機会としている。ブログでは顔なしで掲載しているため。表情が伝わりにくい点がある。次年度は掲載について、改めて確認したうえで、ブログ掲載時の個人情報の取り扱いを再検討する。
	31	個人情報に十分注意しているか		○	活動内での職員携帯での写真は、活動風景を保護者にお伝えできる点では良いが、個人情報の観点からは改善を考えたい(撮影した写真は、データ移行後削除している)。
	32	地域行事への参加や事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	コロナ感染症により参加機会は減少しているが、パラート展での作品の出展や、作業所の催しへの参加などの機会を設けられた。

非常時等の対応	33	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		すべてのマニュアルを策定しているが、定期的な見直しは引き続き実施する。次年度BCPを策定する際にも、効果的な周知方法について検討する。
	34	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		おおよそ毎月避難訓練（地震編・火災編）週間を計画し、実施している。引き取り訓練も保護者様協力のもとで実施することができた。
	35	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止および身体拘束防止委員会を実施。他事業所との合同研修と法人内研修を行っている。事例検討や各種チェックシート（職員セルフチェックリスト含む）を用いて実施している。
	36	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		対応方法をすぐ見れる壁に掲示するなど工夫をしている。おやつの誤食が無いように、成分に応じてテープで色分けし、保管場所を分けている。
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハット事例は適宜出すことができ、全員に共有ができるよう、出勤時に目を通すようにしている。一方、対応方法への定期的な振り返り機会が十分ではないため、改善したい。
●今後に向けた主な改善目標の総括					
①クラウドファンディングを活用した、初の海洋体験を実施できたり、ご寄付いただいたチケットにてサークス鑑賞に行く機会を設けたりと、イベント行事の再開ができた。コロナ禍での感染対策との兼ね合いに苦労はあったものの、社会資源や外部機関との関りの機会を活用し、活動を広げることができたのは大変良かった。次年度も引き続き、元に戻せること、新たに取り組めることを積極的に検討し、充実した活動提供体制を整えていきたい。					
②コロナ禍で外出機会が減った分、室内プログラムが充実できたことは良かった。活動で行なった室内レクリエーションを、自由時間でもご利用者が自発的に行うなど、遊びや関心の拡充になったのではないか。					
③日々の記録をモニタリングやアセスメント、個別支援計画に的確に反映するためにも、ICT活用をさらにすすめる。					
④海洋体験では保護者参加の場面をもつことで連携の場をもつことができた。また、今年度卒業生と、すでに卒業されている方を対象とした保護者会を実施し、卒後の情報共有の機会を設けられた。引き続き、様々な形での保護者参加の機会をもつことで、相談や発信の場面をもてるようとする。					